

信じる力を支えるかに くきCAP通信



くきCAP連絡先

TEL 090-8104-7038

MAIL kuki_cap@yahoo.co.jp

HP <https://kukicap.jimdo.com>

2019年夏号



くきCAPは、子どもへの暴力防止プログラム「CAP(キャップ)」を埼玉県内で実施している団体です。子どもたちがいじめや、虐待、体罰、誘拐、連れ去り、チカン、性暴力などのあらゆる暴力から、自分のこころとからだを守るために、「安心」「自信」「自由」という「大切な3つの権利」を伝え、暴力にあわないために何ができるのか、もし暴力にあったときに何ができるのかを、一緒に考え、練習しています。

信じる力

くきCAPのキャッチフレーズ「信じる力を支えるかに」は、今使っているリーフレットを作った時に、スタッフみんなで一生懸命考えた言葉です。それは、東日本大震災から数年の、被災地の人たちも、他の地域へ避難をしている人たちも、まだまだ混乱し、心も身体も生活も安心できない状況の時で、その輪の少し外にいる私たちも、その影響を大なり小なり受けていた頃でした。そういった時期に、被災地支援で一緒に活動することになったプロのデザイナーさんに、今のくきCAPリーフレットの原型を作ってもらいました。

今、改めて、この「信じる」という言葉を考えてみると、やはりCAPが最初に信じるのは「子どもたちの力」なのかなと思います。「子どもの力を信じて、子どもを支える」ために、おとなの皆さんに何を伝えるのがよいのだろうか、どんな風に伝えるとよいのだろうか、講座の度に考えています。CAPスタッフは、幸せなことに、ワークショップで子どもの凄さを感じる機会が多く持てているのですが、子どもたちのことに関心はあっても、忙しい毎日やそのほかいろいろな理由から子どもの力を信じる機会が持てない方もいると思います。

ですので、一人でも多く、CAPを知ってもらい、地域で子どもたちを信じて支える体制を作ってもらえるよう、今年度は、久喜市の2つの事業に応募しました。(講座詳細は最後のページをぜひご覧下さい!)全部で6回という公開講座の数は、くきCAP初めての試みです。有名なH先生の言葉ではないですが、今が頑張る時なのだと思って、たくさんの人の力を借りて、信じて、繋がって、スタッフ同士もお互いの力を信じて、新たな長距離走を走り出した感じのする2019年度前半です。

どうぞ後半も、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

くきCAP代表 増田知巳



活動報告



2019年6月23日(日) 春日部市
「ハーモニーフェスタ2019」
おとな向けワークショップの開催



2019年6月22日(土) 久喜市
「第16回 男(ひと)女(ひと)のつどい」参加



◆久喜市
中央公民館
1Fホールにて
展示の様子



2019年春日部市男女共同参画推進センターハーモニー 実行委員会企画 CAP に参加して

稲垣 百代

子どもは何も疑うことなく生まれる。しかし、成長するにつれ、子どもたちは気づかぬうちに様々な危険にさらされる。CAPの講座に参加させていただき、子ども自身が自分で身を守ることの必要性をおとなとして認識した。ともすると、私たちは子育ての中で「あれをしてはいけない、これもしてはいけない」と否定することばかりを口にしてしまう。私も孫の成長を見るようになり、初めて肯定的に見守ることがどんなに人の成長に大きく影響するかを実感するようになった。

離乳食の時、子どもは食事が気に入らないと口を開けてくれないという経験をされた方は多いと思う。CAPの教育も同じだと思った。

子ども自身が何をすれば自分の身を守ることができるかを、日常生活に対応しながら身につけるワークショップはとても大切だ。子どもたちはのびのびと自由に育ってほしい。だが現時点でそれが許されないのであればCAPの活動をとおして多くの子どもに知ってもらい、不幸な事件や災難に遭遇しないことを祈るばかりである。

ワークショップの様子



参加した方の感想

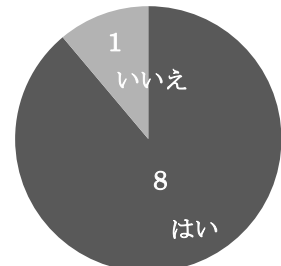
- ・教育委員会と共催などで、各学校を回ってほしい。性暴力プログラムも本当は幼稚園児から見せてほしい。小学校低学年は必須！積極的活動を期待しています。
- ・子ども自身が発信できないくらいの子の虐待死を聞くと、孫を持つ身としては胸がつぶされる思いです。なくなってほしいです。

アンケートより

権利のことが、今までよりもわかりましたか？



子どもたちに学校や、保育園、幼稚園でCAPプログラムを受けさせたいと思いますか？



*数字は人数



2019年7月 県内の児童養護施設にてワークショップ実施

毎年 CAP ワークショップを行わせていただいている児童養護施設で、今年度も職員ワークショップと小学生向け子どもワークショップを実施しました。

職員さんの感想

- ・「暴力」というと、なぐる、けると思ってしまいがちですが、身体だけでなく、心なども、と幅広いということが改めて知ることができました。
- ・いざという時の声が普段言わない方が、周囲に気付いてもらいやすいというのを改めて感じることができた。
- ・「安心、自信、自由」はみんなが生まれもった権利であり、誰にでもあることだけれど、今まで意識したことはなかったので、勉強になりました。
- ・CAPが「未然、発生、悪化、再発 防止」についても意識し大切にしていることを聴き、納得できた。
<明日からやってみようと思ったこと>
- ・子どもへの声のかけかたの工夫。
- ・しかる前に、まずはできたことをほめる。話を聞く等。
- ・子どもたちに、いろいろな「権利」があることを伝え、安心、自信、自由について話したいと思った。
- ・子どもたちに怖い表現で伝えず、〇〇の方が良いよ、など優しい言葉で伝える。
- ・告げ口、言いつけは良くないことだけれど、相談は良いことで、またそれがなぜなのかを教える。
- ・「怒りの仮面」は心理面接場面でよく使っているが、現場の職員とも共有し、子どもと共有できるコトバを持っていることの大切さ、表現される子どもの「怒り」を理解することの大切さを再認識した。

◆認定 NPO 法人 ReBit(りびと)さんによる記念講演

「多様な性って何だろう？～互いの違いを受け入れあえる社会を目指して～」◆

左ページにも記載があります「第16回 男(ひと)女(ひと)のつどい」に、認定 NPO 法人 ReBit の方々が講演に来てくださいました。

～くき CAP スタッフの感想～

LGBT について、これまで分かっていたつもりでしたが、今回の講座をきいて自分は理解していなかったのだなと気づかされました。セクシャリティについての説明も分かり易かったです。パンセクシャルは初めてきました。アライの意味、語源も今回知り、スッキリしました。ALLIANCE! カッコいいですね。

また、LGBT という言葉が知られてからも、まだまだ当事者の方の生きづらさがある、社会保障などに関わる法律が整備されていない・・・という現実があるので、私も理解者として日常に少しずついかせたらと思います。講演してくださった方の言葉で印象に残っているのが、「LGBT の誰かを理解するのではなく、その人自身を理解してほしい」というものです。これは、LGBT、子ども、障害、地域等々の差別をなくす社会を目指すためには不可欠な言葉で、どの世界にも言えることだと思いました。大切な言葉でした。プレゼンテーションも素晴らしかった ReBit さんでした。(Y)

■認定 NPO 法人 ReBit さんの HP <https://rebitlgbt.org/>

■相談窓口情報(講演会資料 Rebit 出張研修レジメより)

- ・よりそいホットライン(24時間無料電話相談、4番が性別や同性愛に関する相談) 0120-279-338
- ・NPO 法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会・東京(LGBT 当事者の家族・友人による会) 090-9876-2423
- ・NPO 法人「SHIP にじいろキャビン」(横浜市内にある LGBT の若者のためのフリースペース)
- ・NPO 法人ピアフレンズ(男の子が好きな男の子のための友達作りイベント)
- ・にじーず(池袋で月1回開催する10代～23歳くらいまでの友達づくりイベント)



ふるすあるは



NPO 法人ふるすあるはは、精神科の看護師 + 医師を中心としたプロジェクトチームで、精神保健にかんする普及啓発活動を行なっています。精神科医療機関、精神保健福祉センター勤務を経て、2012 年より活動開始。絵本とウェブサイトが活動の二本柱、中心テーマは「精神障がいをかかえた親とその子ども」の応援です。全てのイラストは看護師でもあるチアキが担当しています。子どもたちの力を信じ応援する仲間「キッズパワーサポーター」募集中です（無料）。[ふるすあるは](#) → 参加する

■ 絵本（ゆまに書房）

家族のこころの病気を子どもに伝える絵本
 ... うつ病編・統合失調症編・アルコール依存症編
 子どもの気持ちを知る絵本
 ... 不登校編・両親のケンカ編・感覚過敏編



最新刊（学苑社）
『生きる冒険地図』

■ 情報サイト

こころの不調をかかえた親とその子どものためのサイト by ふるすあるは

子ども情報ステーション

相談できるこころの情報があります

こころのジョーキー？
親や家族がジョーキーかも...
自分のココロ・カラダのこと...
言うのがしんどい 話しにくいこと...

<https://kidsinfost.net>



ふるすあるはの
オンラインストア



夫は「生きる冒険地図」を解読できるか

地図の
攻略
エッセイ

夫が自分で読む
子どもにおしげない
あそび
じをもち

どこから聞いてもいい
想像力をひろく

自分のキャラを確信しながら
地図のコトバをよみ

子どもは
夫が「其日待しているほど」
夫のことを信用していい

夫の冒険はじまった
子どもからのマイナスポイントから

ゼロ(フラット)へ
ゼロからプラス1を獲得するため
この地図は夫の手にわたる

4アキ

社会全体で子どもを支える仕組み

「こども応援ネットワーク埼玉」

埼玉県福祉部企画幹 内田貴之

日本では7人に1人の子どもが貧困状態にあり「貧困の連鎖」が深刻な社会問題となっています。

全てのこどもが、チャンスが与えられて人生を切り拓いていく力を持てるよう、社会全体でこどもたちを応援していく必要があります。

そこで埼玉県では、地域のこどもを支える取組を主体的に行う団体・企業・個人のネットワークとして、「こども応援ネットワーク埼玉」を発起人とともに2018年12月に立ち上げました。

会員は10種類の活動メニューを参考にして、自分たちでできることを自分たちで考え取り組んでいただきます。

【会員の活動の種類】

- ①金銭の寄附
- ②こども食堂等の子どもの居場所づくり
- ③食材・物資提供、サービスの提供
- ④体験活動の提供
- ⑤学習支援
- ⑥ボランティア
- ⑦親子への支援（暮らし全般の援助等）
- ⑧場所の提供・フードドライブBOXの設置
- ⑨広報・啓発活動
- ⑩その他の社会貢献活動・公益活動

例えば、埼玉県内でも急速に増加している子ども食堂は、地域の皆さんや企業が取り組みやすい支援の形です。

子ども食堂は、場所の提供や寄付、食材の提供、食事作り、遊びや学び、体験機会の提供など、様々な関わり方があります。

埼玉県では、こうした子ども食堂などの居場所を、こどもが歩いて行ける距離、すなわち小学校区に1か所程度になるまで広がるよう応援したいと考えています。

事務局である埼玉県では、フェイスブックページやホームページで会員活動を発信するほか、支援先のマッチングなどを行い、活動しやすい環境づくりを行っています。

例えば、農業や食育に関心がある会員同士を県が繋いで、畑付き子ども食堂という新たな居場所づくりも始まっています。

また、フードバンクと市民団体をつないで、生活に困窮するひとり親家庭に食料を配付するフードパントリーの設置を支援しています。



こども応援ネットワーク埼玉の会員同士で立ち上げたボランティアグループ「畑こども食堂」の活動



困窮するひとり親世帯向けに無料で食料を配付する「加須子育て応援フードパントリー（※）」の活動

※ フードパントリー = 生活困窮者向けに食料を配付する拠点

会員の皆さんが持つ様々な社会資源を持ち寄ることで、こどもの居場所づくりをはじめとする子ども支援の取組が進むものと考えています。

小さな力をつなぎ合せて大きな力にし、埼玉のこども達の未来を社会全体で応援していきたいと思っています。

あなたも、会員登録してできることから始めてみませんか。

会員登録方法はホームページをご覧ください。

■会員登録はこちら

<https://kodomooouen-net-saitama.themedia.jp/>

■お問い合わせ先

埼玉県福祉部企画幹 内田

電話048-830-3204

kodomooouen@pref.saitama.lg.jp





スタッフおすすめの 本の紹介

「生きる冒険地図」 著 プルスアルハ 文と絵 細尾ちあき 発行 学苑社

今回の通信にも寄稿していただいたプルスアルハさんの最新作。子どもに関わるすべての方に手に取ってほしい1冊です。本のチラシにある「頼れる大人を探す冒険へ 大人のことを信頼しなくていい 大人の脳を使って生きぬけ10代を君が『自分が自分であるために』のメッセージのように、“どんどん私たちおとなを使っていいよ〜”と思えるようになりました。チラシに小さな文字でコソッと書かれた「*この本をみて、眉をしかめる大人には近づくな」のひとことも大好きです。(増田)



6/1(土)「今日と明日をつなぐ冒険—『生きる冒険地図』出版イベント」

NPO法人ぐるすあるは主催の展覧会&トークイベントに参加しました。会場では以前一緒にCAPをしていたKちゃんにも会え、本制作に関わったいろいろな方のお話のほか、歌まであった楽しい時間となりました。

たのなか先生からの精神障害についてのお話は優しくわかりやすく、また、絵本の文と絵を担当しているチアキさんとその小学校時代の担任の先生のお話では、「忘れ物した子どもを怒るのはおかしい。だって、困っているのはその子なんだから。」のひとは目からウロコでした。また、家族の状態が大変なことをなんとか気づかれないようにしようと頑張る子どもにとっては、助けようと頑張るおとなだけでなくいろいろな関係性のおとなが必要なのだなあと、気づかされました。



8/3(土), 4(日)「アロハキッズヨガリーダー養成講座」

CAPを日本に紹介した森田ゆりさんが講師をつとめる、児童養護施設などでアロハキッズヨガのクラスを実施するための研修に参加してきました。

7/22(月)「～地域の人・高校生と共に子どもの居場所を考える～ 筑坂作ろう子どもの居場所シンポジウム」

現役高校3年生が主催で、参加者の半数も高校生という、今まであまり参加したことのない形のシンポジウムでした。前半は、今回の通信に寄稿していただいた埼玉県福祉部少子化対策局長付企画幹 内田さんから『社会全体で子どもを育てる 子どもの居場所づくり』についてのお話があり、中でも「社会的相続」という言葉は初めて聞いたもので、それは自立する力の伝達行為を指すそうです。「相続」というと、別の場面しか浮かびませんでした。さまざまな理由で、親と時間や経験の共有ができなかったり、安心して学習や遊び、体験ができる環境でなかったりした子どもたちが、自立に必要な力を学ぶ機会を逃しているという現状を表すための言葉なのかな〜と理解しました。

そういった子どもたちの居場所になろうよ！というのが、子ども食堂です。いくつか紹介された調査統計の中で、いいなあとと思ったのが、沖縄の居場所に通っている子どもへのアンケート結果です。「自分に自信があるか？」という質問に対して「そう思う」と答えた子どもは、居場所に来る前は29.1パーセントだったのが、来ている現在は37.1パーセント。ひとつのアンケート結果ではありますが、子どもの居場所や子ども食堂がしっかりと子どもの視点に立っていれば、子どもたちは(CAPで伝えるところの)「安心、自信、自由の権利」を持つて生きることができると、そういう場所がたくさんあれば、何かあったときの逃げ場や支えになってくれるのだと思いました。



2019年度は久喜市内で
さまざまな公開講座を実施しています！

★久喜市子育て支援啓発活動事業 <おとな向け講座>

「暴力から子どもを守るスキルを学ぼう！CAP ミニ講座&おとなワークショップ」

CAP ミニ講座①

<日時> 8月20日(火) 10:00~11:00
<会場> ふれあいセンター久喜 第1・2会議室
(久喜市青毛 753-1)
<内容> 小学生プログラム体験(知っている人からの暴力についての劇)、CAPについて

CAP ミニ講座②

<日時> 10月3日(木) 10:00~11:00
<会場> 久喜市栗橋コミュニティセンター
くふるホール(久喜市中里 1048-1)
<内容> 就学前プログラム体験(誘拐・知らない人からの暴力についての人形劇)、CAPについて

CAP ミニ講座③

<日時> 10月7日(月) 10:00~11:00
<会場> 久喜市鷲宮総合支所 407・408 会議室
(久喜市鷲宮 6-1-1)
<内容> 小学生プログラム体験(いじめについての劇)、CAPについて

CAP ミニ講座④

<日時> 10月9日(水) 10:00~11:00
<会場> 久喜市清久コミュニティセンター・
西公民館ホール(久喜市上清久 1489-2)
<内容> 中学生プログラム体験(いじめについての劇)、CAPについて

CAP おとなワークショップ

<日時> 11月15日(金) 10:00~12:00
<会場> 久喜市鷲宮東コミュニティセンターさくら 1F 集会室(久喜市桜田 3-10-2)
<内容> 小学生プログラム体験(いじめの劇)、CAPについて、暴力や虐待・DVについての正しい知識、子どもに相談されたときの話の聴き方のコツ、暴力防止のためにおとなができることなど

★久喜市女と男の共生セミナー <子ども向け&おとな向け講座>

CAP(キャップ)ワークショップで子どもたちの大切な心とからだを守る方法を学ぼう！

CAP 子どもワークショップ&おとなワークショップ

<日時> 11月24日(日) 13:30~15:30(受付 13:15~)
<会場> ふれあいセンター久喜 会議室1, 2, 3(久喜市青毛 753-1)
<対象> 子ども向け: 年長~小2(定員15人) おとな向け: どなたでも(定員20人)
*お様が講座に参加される場合は、保護者の方は必ずおとな向け講座にご参加ください。
<託児> 3歳~、定員5人 申込締切 11/14(木) <手話通訳>あり

**申し込み
方法**

参加費無料

要予約 お名前(ふりがな)、ご連絡先、お子様の場合は年齢・性別も明記の上、電話、メール、または、くき CAP ホームページからお申し込みください。
TEL: 090-8104-7038(増田) メール: kuki_cap@yahoo.co.jp
HP: <https://kukicap.jimdo.com>
*3歳未満のお子様は、おとな向け講座に同席可能です。

**くき CAP 応援サポーター(年会費 3000円) &
「フリーズア事業」への寄付を募集中です！**

<ゆうちょ銀行をご利用の方>
記号: 10380 番号: 20317561
<ゆうちょ銀行以外をご利用の方>
銀行名: ゆうちょ銀行 店名: ○三八
口座: 普通 2031756
*名義はどちらも「クキキャップ」です。

「フリーズア事業」は、白血病でなくなった元代表「えんちゃん」こと遠藤好子さんが好きだった花の名前をつけた基金です。寄付していただいたお金は、子どもワークショップの実施を補助するために活用させていただいています。ぜひご支援ご協力お願いいたします。

《一部イラスト: チアキ(がるすあるは)》

